

CONTENTS

- これだけはみておこう! 必見映画選
- 作家として活躍する先生が語る「私の映画体験」
- イメージライブラリー開館カレンダー

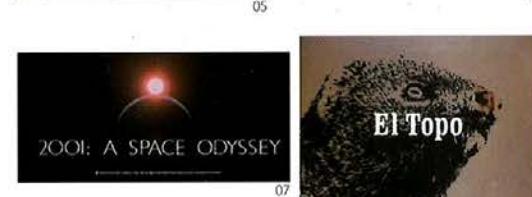
これだけはみておこう! 必見映画選

19世紀末に誕生した映像は、20世紀を通して最大のメディアとして私たちの知覚に浸透しています。その歴史は、絵画や彫刻など他の芸術の歴史に比べれば非常に短いものです。しかし、映像は絵画的、音楽的、演劇的、物語的、環境的領域に至るすべての芸術と深く、そして複雑に関わり合い、芸術のスペクトラルにその位置を確立しました。イメージライブラリーはこの「芸術作品」としての映像を視野におき、劇映画だけでなく、アニメーション、実験映像、ドキュメンタリーなど様々なジャンルの優れた作品を収集しています。

「映像学科じゃないから映画やアニメーションなんて関係ない」なんて思わないでください。芸術のあらゆるジャンルを横断する優れた映像作品は、優れた絵画や音楽に触れるのと同じように私たちに豊かな感動を与えてくれます。それだけではありません。優れた映像作品に深く踏み込めば、その背後には諸ジャンルの美術を学ぶ上で活用すべき膨大なイメージが隠されているのです。創作活動をするみなさんにとって、それらはインスピレーションのすばらしい宝庫となることでしょう。

そこで、イメージライブラリーの所蔵作品の中から、映画史上重要な作品だけでなく、芸術として特筆すべき作品、実験精神に溢れた作品、デザイン的に優れた作品など、「ムサビで学ぶみなさんにぜひ観ておいてもらいたい作品」というテーマのもと、そのほんの一部をピックアップしました。14000作にも及ぶ所蔵作品の中から、限りある誌面に掲載する作品を選抜するのは非常に難しく、ここではあえて一人の監督につき一作品、または大きなムーブメントのなかでの代表作を一点といった要領で(断腸の思いで)大きく絞っています。これらは、これから映画を観ていくための地図として、または一つの指針として活用していただけるのではないかと思います。普段なかなか観ることのできない貴重な作品も多々あります。このリストにある作品をすべて観てみるのも良いでしょうし、これを足がかりにしてさらに開拓するのも良いでしょう。新しい映像体験を求めて、ぜひ映像作品の世界に一步踏み込んでみてください。

△全170作は、本学教員の監修のもと、本学の授業で頻繁に取り上げられる作品や、映画史的位置付けを考慮した上で選抜しています。なお、本号は2006年4月発行のイメージライブラリー・ニュース第18号より「これだけはみておこう! 必見映画選」「私の映画体験」を抜粋・再編集したものです。



01. インディア・ソング
- マルグリット・デュラス

02. 日本春歌考
- 大島 渚

03. イレイザーヘッド
- ティッド・リンチ

04. アメリカの影
- ジョン・カサヴェテス

05. ジャンピング
- 手塚 治虫

06. ミツバチのさやか
- ピクトル・エリセ

07. 2001 年宇宙の旅
- ス坦リー・キューブリック

08. エル・トポ
- アレハンドロ・ホドロフスキ

09. 未来世紀ブラジル
- テリー・ギリアム

10. パワーズ・オブ・テン
- チャールズ&レイ・イームズ

11. フィルム・ビフォー・フィルム
- ヴェルナー・ネケス

12. ラルジャン
- ロベール・プレッソン

13. 大人は判ってくれない
- フランソワ・トリュフォー

14. AKIRA
- 大友 克洋

15. カオス=シチリア物語
- タビアーニ兄弟

16. タンゴ
- ズビグ・リブチンスキ

17. 砂の女
- 勉使河原 宏

18. フィツカラルド
- ヴェルナー・ヘルツォーク

19. ゆきゆきて神軍
- 原 一男

20. プリンス&プリンセス
- ミッシェル・オスロ

21. 自転車泥棒
- ピッティオ・デ・シーカ

左の写真は各作品の
タイトルデザインです

これだけはみておこう！必見映画選



「くじら」 1952年



「モーション・ペインティングNO.1」 1947年



「午後の網目」 1943年



「アンダルシアの犬」 1928年



「月世界旅行」 1902年

タイトル	監督/制作者	製作年 制作国	解説	<input checked="" type="checkbox"/>
工場の出口	リュミエール兄弟	1895年 フランス	シネマグラフの発明者リュミエール兄弟の最初の映画。これがパリのグラン・カフェで公開されたその時が“映画の誕生”とされている。	<input type="checkbox"/>
月世界旅行	ジョルジュ・メリエス	1902年 フランス	メリエスはフィルム操作によるトリック撮影の発見者。映画に脚本などの演劇要素を取り入れた。月の目にロケットが突っ込むシーンは有名。	<input type="checkbox"/>
イントレランス	D·W·グリフィス	1916年 アメリカ	グリフィスは、数々の新手法を取り込んだ“アメカ映画の父”。不寛容によって起きた歴史上の4つの事件を同時に描く。	<input type="checkbox"/>
カリガリ博士	ロベルト・ヴィーネ	1919年 ドイツ	20世紀初頭の芸術運動“ドイツ表現主義”的最初の映画で代表的作品。精神病者の妄想を奇想に歪んだ空間と人工的な照明によって描く。	<input type="checkbox"/>
リズム21	ハンス・リヒター	1921年 ドイツ	抽象形態のみで構成される“絶対映画”的代表作。ダイナミストリヒターが、映像の運動のみで視覚的リズムを生み出すことを試みる。	<input type="checkbox"/>
極北のナヌーク	ロバート・J・フラハティ	1922年 アメリカ	イヌイットの暮らしを描いたドキュメンタリー映画の草分け。眞実を伝える為、時に演出されたフィルムは発見の驚きと喜びで輝いています。	<input type="checkbox"/>
最後の人	F·W·ムルナウ	1924年 ドイツ	ホテルのドアマンが高齢のためトイレにされる悲劇。携帯可能になり自由に移動撮影するカメラが、登場人物の内面を雄弁に語る。	<input type="checkbox"/>
幕間	ルネ・クレール	1924年 フランス	バレエ(美術ピカビア/楽曲サティ)の幕間に上映するために制作された。踊り子、蜃気楼などのイメージが抽象的な運動のリズムを作り出す。	<input type="checkbox"/>
バレエ・メカニック	フェルナン・レジェ	1924年 フランス	キュビズムを代表する画家の一人レジェによる映画。リズムや形態の類似によって結び付けられたモチーフによって、映画における対位法を試みる。	<input type="checkbox"/>
戦艦ポチョムキン	セルゲイ・M・エイゼンシュタイン	1925年 ソ連	ウジ虫入りのスープを飲まされるポチョムキン号の兵士の反乱を、独創的なモンタージュ技法によって映像言語化した映画史上先駆的な傑作。	<input type="checkbox"/>
メトロポリス	ブリッコ・ラング	1926年 ドイツ	近未来社会の恐怖を鋭くついたサイレント時代の古典SF。その世界観、都市やロボットの洗練を極めた造形は、その後多くの模倣を生んだ。	<input type="checkbox"/>
アネミック・シネマ	マルセル・デュシャン	1926年 フランス	マルセル・デュシャンが、映画の光学的な効果に到達する、より実験的な方法として制作したダダ映画。螺旋が描かれた円盤が回りつぶれる。	<input type="checkbox"/>
アンダルシアの犬	ルイス・ブニエール サルバドール・ダリ	1928年 スペイン	無意識から生まれたイメージを繋続なく連結したシュルレアリスム映画の代表作品。切り裂かれた眼、手の平の蝶…不条理が強烈な印象を残す。	<input type="checkbox"/>
キートンの蒸気船	チャック・ライズナー バスター・キートン	1928年 アメリカ	久々に父の元に戻る息子は自慢にカーニーバルをつける。しかし今日は母の日なので同じ花が…。練られた脚本と超人的なアクションが圧巻。	<input type="checkbox"/>
裁かるジャンヌ	カール・T・ドライバー	1928年 フランス	デンマークの巨匠ドライバーが、ジャンヌ・ダルク裁判を題材に、人間の表情の執拗なクローズ・アップの積み重ねによる心理描写を追求する。	<input type="checkbox"/>
ひとで	マン・レイ	1928年 フランス	シュルレアリスムのアーティスト、マン・レイは、絵画、彫刻、映画など幅広い創作活動をした。ローベル・デスノスの詩に着想を得た作品。	<input type="checkbox"/>
カメラを持った男	ジガ・ヴェルトフ	1929年 ソ連	“キノ・プラウダ(映画の真実)”というジガ・ヴェルトフ独自のモンタージュ理論に基づく実験的なドキュメンタリー映画。	<input type="checkbox"/>
フランケンシュタイン	ジェームズ・ホエール	1931年 アメリカ	後の怪奇映画に多大な影響を与えたホラーの古典的作品。首にボルトが刺さった怪物のイメージはこの映画から生まれた。	<input type="checkbox"/>
新学期 操行ゼロ	ジャン・ヴィゴ	1933年 フランス	寄宿学校の管理体制に反抗し、自由を求め革命を起こす供述。羽根枕を引きちぎり屋根の上を駆け回る小さなナーキスト達の姿が鮮かしい。	<input type="checkbox"/>
丹下左膳除話 百萬両の壺	山中 貞雄	1935年 日本	庶民の人生の模倣を、軽妙な笑いに包んで描いた時代劇版小市民映画。百万両のありかが隠された壺をめぐる騒動。	<input type="checkbox"/>
モダン・タイムス	チャールズ・チャップリン	1936年 アメリカ	喜劇王チャップリンが社会の急速な機械化に対し、人間らしさを！と叫んだ傑作喜劇。サインントにこだわり続けた彼が初めて声を発した作品。	<input type="checkbox"/>
民族の祭典	レニ・リーフェンシュタール	1938年 ドイツ	ベルリンオリンピックの記録映画。力強く壯麗な映像美はナチの美学と合致し、戦後レニはプロパガンダの協力者として非難された。	<input type="checkbox"/>
オズの魔法使	ビクター・フレミング	1939年 アメリカ	30年代に登場したカラーフィルムの色調は現実世界を描くには違和感があった。本作はこれを使い分け、夢の世界のみをカラーで描いている。	<input type="checkbox"/>
ゲームの規則	ジャン・ルノワール	1939年 フランス	貴族の恋愛ゲームの悲喜劇をパロディとして柔らかな演出で描く映画作のバイブル的作品。監督は印象派画家ルノワールの次男。	<input type="checkbox"/>
戦ふ兵隊	龟井 文夫	1939年 日本	戦中の記録でありながら勇ましい兵隊はひとりも登場せず、中国の雄大な自然や死にゆく軍馬への眼差しも忘れないかった一篇の詩のような作品。	<input type="checkbox"/>
ファンタジア	ウォルト・ディズニー(製作)	1940年 アメリカ	クラシック音楽にのり8つのエピソードがダイナミックに展開するミュージカル・アニメーション。ミッキーも登場するディズニー映画の傑作。	<input type="checkbox"/>
市民ケーン	オーソン・ウェルズ	1941年 アメリカ	弱冠25歳のO・ウェルズが、新聞王ケーンの波乱的人生を描いた処女作。斬新な構成と演出、実験的な撮影法は後の映画史に影響を与えた。	<input type="checkbox"/>
くもとちゅうりっぷ	政岡 憲三	1942年 日本	同時期の日本漫画映画の傑作『桃太郎 海の神兵』とは対照的に、戦時は微塵も感じられない。その繊細な動きと豊かな詩情には思わず嘆息。	<input type="checkbox"/>
午後の網目	マヤ・デレン	1943年 アメリカ	アメリカ実験映画の出発点であり、60年代以降にはフェミニスト映画の先駆としての再定義がなされた。精神分析的に自殺願望の夢想を描く。	<input type="checkbox"/>
モーション・ペインティングNO.1	オスカー・フィッシンガー	1947年 アメリカ	油絵をガラス板の上に描いていく過程をコマ撮りした抽象アニメーション作品。曲はバッハの「ブランデンブルグ コンチェルトNo.3」。	<input type="checkbox"/>
自転車泥棒	ピットリオ・デ・シーカ	1948年 イタリア	戦後困窮する人々を同時代的な視点で捉えたネオアリズモの代表作。商売道具の自転車を盗まれてしまった父子の物語を人情味豊かに描いた。	<input type="checkbox"/>
皇帝の鸞	イジー・トルンカ	1948年 チリ/スペイン	アンデルセンの『ナイチンゲール』を題材にトルンカによって制作されたチリの人形アニメーション。独自の視点と演出でみせる至玉の作。	<input type="checkbox"/>
オルフェ	ジャン・コクトー	1949年 フランス	前衛映画の系譜を受け継いだ詩人コクトーが描く現代のギリシャ神話。生と死を彷彿する詩人を逆回し等のトリック撮影を用いて幻想的に描く。	<input type="checkbox"/>
色彩幻想 -過去のつまらぬ気がかり	ノーマン・マクラレン	1949年 カナダ	フィルムに直に施すダイレクトペイントやスクレッチによる抽象アニメーション。絵に同調する音楽はジャズ界の巨匠オスカー・ピーターソン。	<input type="checkbox"/>
羅生門	黒澤 明	1950年 日本	芥川龍之介『羅生門』の映画化。迫力ある語り口と白黒の中に色彩と風が見える驚異的な光と影の表現は人間のエゴイズムを鮮やかに炙り出す。	<input type="checkbox"/>
くじら	大藤 信郎	1952年 日本	過酷な状況下に炙り出される男たちのエゴイズムと性欲。ピカソやコクトーにも絶賛されたカラーセロファンを用いた影絵アニメーション。	<input type="checkbox"/>
東京物語	小津 安二郎	1953年 日本	尾道の老夫婦が東京で暮らす息子達を訪ねる。独自の美学に基づく研ぎ澄ました演出で緩やかに崩壊する家族の心を浮き彫りにした傑作。	<input type="checkbox"/>
裏窓	アルフレッド・ヒッチコック	1954年 アメリカ	トリュフォーなど芸術派の作家も敬愛して止まないサスペンスの神様ヒッチコックは、豊かな実験精神で多くの映像テクニックを確立した。	<input type="checkbox"/>
大地のうた	サタ吉ット・レイ	1955年 インド	ベンガルの田舎で生活する一家の苦難を少年オプーの目を通して描いた。人と自然、動物、雨や汽車までが同質に描かれた詩情溢れる風物詩。	<input type="checkbox"/>
浮雲	成瀬 巴喜男	1955年 日本	敗戦後の虚無感の中で転落してゆく一組の男女を描いた。理屈で割り切れない人間の心情を、眼差しや身ぶりの積み重ねの描写から炙り出す。	<input type="checkbox"/>



ドイツ零年

ロベルト・ロッセリーニ
(1948年/イタリア)



雨月物語

溝口 健二
(1953年/日本)



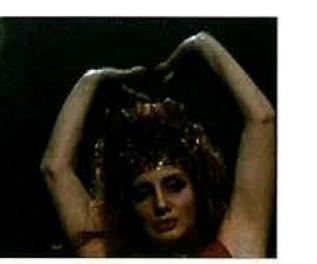
大人は判ってくれない

フランソワ・トリュフォー
(1959年/フランス)



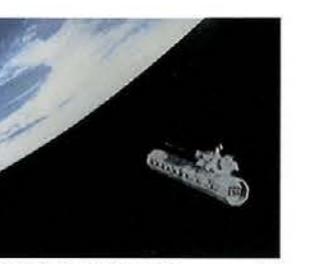
ラ・ジュテ

クリス・マルケル
(1962年/フランス)



フェリーニのローマ

フェデリコ・フェリーニ
(1962年/イタリア)



2001年宇宙の旅

スタンリー・キューブリック
(1968年/アメリカ)



薔薇の葬列

松本 俊夫
(1969年/日本)



リトニアへの旅の追憶

ジョン・メカス
(1950-72年/英・西獨合作)



鏡

アンドレイ・タルコフスキイ
(1975年/ソ連)



タクシードライバー

マーティン・スコセッシ
(1976年/アメリカ)



パワーズ・オブ・テン

チャールズ・レイ・イームズ
(1951年/アメリカ)



対話の可能性

ヤン・シュヴァンクマイエル
(1982年/チェコスロバキア)

・作品は制作年順に並んでいます。

・タイトルとジャンルは作品のものを表記しています。作品が収録されている資料のタイトル・ジャンルとは異なる場合があります。

・資料の保管場所や貸出状況などの詳細情報は、イメージライブラリーの検索システムで調べることができます。イメージライブラリーの検索システムには、学内の端末からもアクセスできます。



「DRILL」1983年



「草迷宮」1979年



「イレイザーヘッド」1977年



「道成寺」1976年



「旅芸人の記録」1975年



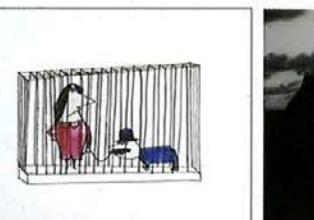
「ざくろの色」1971年



「心中天網島」1969年



「気狂いピエロ」1965年



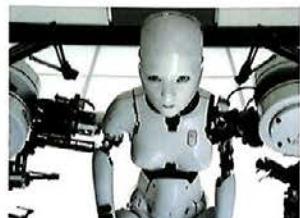
「人間動物園」1962年



「第七の封印」1956年

タイトル	監督・制作者	制作年 制作国	解説	□
土方巽 夏の嵐	土方巽(出演)	1973年 日本	戦後日本の前衛ダンスの牽引者であり「暗黒舞踏」の創始者である土方巽は、「73年京都大学講堂における舞踏をもじらの舞踏を封印した。□	
ファンタスティック・プラネット	ルネ・ラルー <small>ルネ・ラルイ</small>	1973年 フランス	青い肌、赤い眼の巨人が支配する惑星が舞台のSFファンタジー。切り紙アニメーション独特の動きでローラン・トボールの絵は奇想を増す。□	
インディア・ソング	マルグリット・デュラス	1974年 フランス	映像と分離した「オフの声」—画面に現れない者たちの対話によって、記憶と忘却とのせめぎ合いを表現しながら、熱狂的な愛の物語を織る。□	
蛙の求婚	イブリン・ランパート	1974年 カナダ	続を腰に下げた蛙が、美しい白ネズミにプロポーズ。スコットランド民謡に合わせたアニメーションで、黒い背景に色鮮やかな切り紙が映える。□	
カッコーの巣の上で	ミロス・フォアマン	1975年 アメリカ	刑務所の強制労働を逃れるため狂人を装い精神病院へ移送された男は、完全に管理された不条理な世界やがて本物の狂人になっていく。□	
ジョーズ	スティーブン・スピルバーグ	1975年 アメリカ	巨大人喰い蚊と人間との戦いを描いたパニック映画。細部まで設計されたショットや人物描写など弱冠27歳の監督の演出力に目を見張る。□	
旅芸人の記録	テオ・アンゴロプロス <small>ギリシャ</small>	1975年 ギリシャ	旅芸人一家の物語を軸に現代ギリシャ史を旅する壮大な映像叙事詩。奇跡のような長回し撮影で描かれる圧倒的なスケールの映像美は必見。□	
アラベスク	ジョン・ウィットニー	1975年 アメリカ	コンピュータ・グラフィックの先駆者ジョン・ウィットニーの代表作。様々な線や图形が複雑な運動を繰り広げる抽象映画。□	
優しい金曜日	田名網 敬一	1975年 日本	アニメーションや版画など、幅広い創作活動を続けるグラフィック・デザイナーの田名網敬一が、自身の少年時代の記憶を走馬燈のように綴る。□	
道成寺	川本 喜八郎	1976年 日本	日本を代表する人形アニメーション作家・川本喜八郎が、能や歌舞伎の題材となった安珍清姫伝説を脚色、女の情念と業を独自の様式美で描く。□	
アニー・ホール	ウディ・アレン	1977年 アメリカ	映画の都ハリウッドの対極に位置するニューヨークで活躍する監督が、諷刺と皮肉を効かせながら、都会人の孤独を浮き彫りにする恋愛悲喜劇。□	
イレイザーヘッド※1	デビッド・リンチ	1977年 アメリカ	不可解さに満ちていながらも杭い難い魅力をもつ初期の「リンチ・ワールド」。不気味な赤ん坊の父親になった男の悪夢と妄想を描く。□	
変身	キャロライン・リーフ	1977年 カナダ	ガラス板の上に置かれた砂で絵を描き、下から光を当てるという技法で作られたアニメーション。砂の陰影が画面に豊かな表情を与えている。□	
ディア・ハンター	マイケル・チノ	1978年 アメリカ	200万人以上の死者を出したベトナム戦争。アメリカの犯した誤りや精神的肉体的後遺症、挫折感をロシア系移民の心の襞に重ね描いた秀作。□	
地獄の默示録	フランシス・F・コッポラ	1979年 アメリカ	ジャングルの河沿いに悪夢のように浮かび上がる戦争の狂気。人間の根深的な恐怖を暴き、公開当時賛否両論を巻き起こしたベトナム戦争映画。□	
十九歳の地図	柳町 光男	1979年 日本	上京してきた新聞配達員の青年は人々への憎しみを込め地図を作る。行き場の無さと孤独。場末の町を舞台に慣りに満ちた青春を描く異色作。□	
草迷宮	寺山 修司	1979年 日本	泉鏡花の原作から、青年の手毬唄探しに仮託した母追慕の物語を、幻想・過去・現在を交錯させる手法で紡いだ哀切な抒情に溢れた物語。□	
リフレクティング・プール	ビル・ヴィオラ	1979年 アメリカ	ビル・ヴィオラは現代美術においても高く評価されるビデオ・アーティスト。森の中のプールをビデオの手法で捉え時間の重層化を試みる。□	
王と鳥※2	ポール・グリモー	1979年 フランス	中世的な世界にロボットなどのSFの要素がふんだんに盛り込まれたファンタジー。宮崎駿にも大きな影響を与えたことが随所に見て取れる。□	
話の話	ユーリ・ノルシュテイン	1979年 ソ連	オオカミの子を狂言回しに綴る叙事詩アニメーションの一編。母の子守唄、戦争に駆り出される男たち。子供時代の思い出を詩情豊かに描く。□	
ツイゴイネルワイゼン	鈴木 清順	1980年 日本	サラサーのレコード盤が誘う、現実と幻想の交錯した狂気の世界。鬼才・鈴木清順が極彩色で彩る、生と死、エロスの沸き立つ大胆な幻想譚。□	
タンゴ	スピグ・リブチンスキイ	1980年 ポーランド	飛び込んだボールを取りにきた少年を筆頭に、順々に人が室内に入ってくる。数千枚のコマをタンゴのリズムに合わせて構成した不思議な作品。□	
泥の河	小栗 康平	1981年 日本	戦後、復興始めた大阪。河岸のうどん屋の少年は、対岸に繋がれた郭舟に住む姉弟との出会いと別れの中で、初めて生きることの痛みを知る。□	
コヤニスカッティ	ゴッドフリー・レジオ	1982年 アメリカ	コヤニスカッティとはアメリカ先住民ホピ族の言葉で「平衡を失った世界」の意。文明と自然の関係をナレーションのない圧倒的な映像で綴る。□	
フィツカラルド	ヴェルナー・ヘルツォーク	1982年 西ドイツ	神話的世界を見つめ締める超時代的作家・ヘルツォークが、ペルーの未開の地でオベラハウスを建設しようとする男の物語を描く。□	
ル・アッサンブランジュ	トリン・T・ミンハ	1982年 アメリカ	客観的記録を批判し、意味とフレームから解放された「眼差しの映像」をもってアフリカの女性を捉えた作品。柔らかく繊細なカメラが美しい。□	
天使	パトリック・ボカノウスキー	1982年 フランス	7つのシーケンスからなる恋愛的映像詩。美しくも神経症的な弦の音と細密な特殊効果撮影から生み出された鮮烈なイメージの奔流。□	
ボーイ・ミーツ・ガール	レオス・カラックス	1983年 フランス	80年代のフランス映画界で最も作家的な生き方をした「恐るべき子供」カラックス。自らの魂を吐露した夜のパリの情景は美しくも物悲しい。□	
ラルジャン	ロベール・ブレッソン	1983年 フランス	偽札によって破滅へと導かれる青年。孤高の映画作家ブレッソンの、台詞と演技を極力排した禁欲的な演出が、より鋭く研ぎ澄まされた遺作。□	
風櫃の少年	ホウ・シャオシェン	1983年 台湾	兵役を直前に控えた少年達の無為でかけがえのない時間を捉えた青春映画。ひのひとした新しい肌触りを持つ台湾ニューウェイブの代表作品。□	
家族ゲーム	森田 芳光	1983年 日本	囁くような会話、音楽を一切使用せず現実音を誇張した音処理、ねじれた空間…。現代の家族関係をシニカルにシュールに描くホームドラマ。□	
DRILL	伊藤 高志	1983年 日本	社会の内外の境界である集合住宅の下駄箱の空間を歪曲した世界観でみせる。体育館をスチールでコマ撮りした『SPACY』も初期の代表作。□	
カオス=シチリア物語	タピアーニ兄弟	1984年 イタリア	原作はビランデッロの短編集『一年間の物語』から選ばれた6話から成る。カラスが狂言回しとなり描かれるトスカーナの美しく幻想的な物語。□	
ストレンジャー・ザン・パラダイス	ジム・ジャームッシュ	1984年 米・西独	ワンシーン・ワンカットで渋えない若者の日常を描いた低予算映画。独特の感性が各方面で話題となり、インディーズブームを巻き起こした。□	
パリ、テキサス	ヴィム・ヴェンダース	1984年 西独	放浪から帰還した男が幼い息子と鉢を確かめ合いながら失恋した妻を捜す。ドイツ監督がアメリカの風景の中に描く家族の再生と人間の孤独。□	
ダウンサイド・アップ	トニー・ヒル	1984年 イギリス	カメラが水平垂直方向に回転運動を繰り返しながら半周ごとに新たな空間へ移行する。カードの表裏のように世界を切り取った驚きのカメラ眼。□	
ジャンピング	手塚 治虫	1984年 日本	漫画界の巨匠・手塚治虫は、実験アニメーションの世界でも大きな功績を残した。ジャンプし続ける子供の視界をワンカットで描いた作品。□	
パラダイス	イシュ・バテル	1984年 カナダ	インドの古い詩を題材にした切り紙アニメーション。絢爛豪華な王宮は、背景画に穴を開け、後ろから光を当てるという手法で制作されている。□	
未来世紀ブラジル	テリー・ギリアム	1985年 イギリス	コンピューターに全てを管理された近未来を描いたSF映画。アナログ表現による豊かで奇怪なイメージの世界は子供の頃見た怖い夢のようだ。□	
ショア	クロード・ランズマン	1985年 フランス	ユダヤ人大量虐殺の当事者達の証言のみで作られた衝撃作。人間の記憶のみで作られたこの映画は表象不可能な地獄を私達の脳裏に垣間見せる。□	

タイトル	監督・制作者	制作年 制作国	解説	□
第七の封印	英格マール・ベルイマン	1956年 カーナー	騎士は死神に死を賭けてチェスの勝負を挑む。中世世界の人間と死の戯れを、厳格な演出と宗教画のような美しい映像で描いた神秘劇。□	
ピカソ-天才の秘密-	アンリ・ジョルジュ・クルーザー	1956年 フランス	常にひとつのかたちに固執することのないピカソの大膽な筆觸を間近に捉える。クルーザー監督の被写体の捉え方は記録映画の域を越えた。□	
幕末太陽傳	川島 雄三	1957年 日本	幕末の品川遊郭に居座るひとりのお調子者を描く傑作コメディ。職人芸の域に達したスピード感溢れる演出と一瞬の静。鬼才・川島雄三の代表作。□	
ぼくの伯父さん	ジャック・タチ	1958年 フランス	だばだばコートに雨傘、ぐわえパイプがトレードマークのユロ伯父さんが巻き起こす騒動を描いた長編喜劇。ボエー溢れる町の描写が楽しい。□	
灰とダイヤモンド	アンジェイ・ワイダ	1958年 ポーランド	対立レジスタンスの青年にもたらされる悲劇。ナチス解放後もソ連の支配から脱して得なかった祖国の内情を「ボーランド派」監督が直視する。□	
アメリカの影	ジョン・カサヴェテス	1959年 アメリカ	ハリウッドの製作システムを否定し、自主製作の道を切り拓いたカサヴェテスの处女作。シナリオのない即興演出で、異人種間の愛に肉薄する。□	
若者のすべて	ルキノ・ヴィスコンティ	1960年 イタリア	南部からミラノへと移住してきた貧しい一家が、大都市の中で崩壊していく様を描いた叙事詩。監督は「ベニスに死す」等の耽美的作品で有名。□	
情事	ミケランジェロ・アンティオーニ	1960年 イタリア	突然失踪した女性を探す親友と婚約者。誰はいつか二人の情事に乗り替わる。愛の不毛、コミュニケーションの不在、時代の倦怠感を描く。□	
地下鉄のザジ	レイ・マル	1960年 フランス	少女ザジのパリ見物の模様を描いたたばたば喜劇。原作者はショルレアリストのR・クロー。エッフェル塔の螺旋階段のシーンは圧巻。□	
裸の島	新藤 兼人	1960年 日本	瀬戸内海の孤島で生きる一家。水のない島に夫婦は毎日対岸から小舟で水を運ぶ。人間の営みを一切の台詞を排し映像と音のみで描いた映像詩。□	
ドッグ・スター・マン	スタン・ラック	1961年 アメリカ	アメリカ実験映画史上の古典的作品。血液や内臓といったミクロから宇宙的マクロまでの映像断片が交錯し、宇宙論的イメージが湧出する。□	
去年マリエンバードで	アラン・レネ	1961年 フランス	男の言葉に従い、女は覚えてはいない去年の情事の記憶を作り上げていく。シンメトリー構図の中で紡がれる時間と空間、意識と無意識の迷宮。□	
黒い十人の中	市川 崑	1961年 日本	男への復讐を図る十人の女たち。モノクロ画面を活かしたスタイリッシュな映像は、市川崑のモダニズムの真骨頂。女優陣の華やかさも魅力。□	
水の中のナイフ	ロマン・ポランスキイ	1962年 ポーランド	船上の閉じた空間で次第に狂気を帯びてゆく3人の男女を、繊細なグレーの色彩と抑えた台詞、ジャズを用いて簡潔かつ銃利な演出で描いた。□	
長距離ランナーの孤独	トニー・リチャードソン	1962年 イギリス	イギリスの労働者階級と体制への反逆を描くフリー・シネマの代表作。感化院に送り込まれた少年の怒りと自尊心を生きさせと描く。□	
人間動物園	久里 洋二	1962年 日本	武満徹のヴォーカリズムに合わせ、框の中で男は女に犬のようあしらわれ、リードで引っ張られる。ブラックユーモアの効いた作品。□	
十三人の刺客	工藤 栄一	1963年 日本	シンメトリー・クロース・アップなどスタイリッシュな構図で描かれた時代劇サスペンス。悪徳藩主を討ち取る13人の武士の策略を描く「集团時代劇」。□	
鼻	アレクサンダー・アレクセイフ	1963年 フランス	ピノクシオの創始者による作品。ピンの凹凸によって描かれた絵は白から黒までをつなぐハーフトーンの豊かな色調を見せて。□	
奇跡の丘	ピエロ・パオロ・バジーニ	1964年 イタリア	詩人、作家、批評家、画家など多岐にわたって活動した急進的作家バジーニの表現形式が確立された作品。『マタイによる福音書』の映画化。□	
砂の女	勅使河原 宏	1964年 日本	安部公房の小説を映画化した前衛的傑作。砂丘地帯の穴に閉じ込められた男の不条理な心理変化と、強迫的な砂の造形美。□	
赤い殺意	今村 昌平	1964年 日本	雪国を舞台に抑圧された女の成長を斬新なカメラワークで描く衝撃作。人間の欲を直ぐ見据えた圧力のある演出で「悲喜劇」と呼ばれた。□	
気狂いピエロ	ジャン・リュック・ゴダール	1965年 仏/イギリス	ジンナリオなしの即興演出と、既成の映像・言葉・音からの引用で構成。既成の映画文法にとらわれない革新的な語り口は世界に衝撃を与えた。□	
ひなぎく	ヴ			



「ディレクターズ・レーベル」シリーズより



「親愛なる日記」1993年



「ストーン」1992年



「数に溺れて」1988年



「78回転」1985年

タイトル	監督・制作者	製作年 制作国	解説	<input checked="" type="checkbox"/>
フィルム・ビフォー・フィルム	ヴェルナー・ネクス	1985年 ドイツ	映画が発明される以前の“動く絵”にまつわる歴史の装置を紹介し、知覚現象を利用した動きのイリュージョンの発達史をたどる。	<input type="checkbox"/>
78回転	ジョルジュ・シュウイグベール	1985年 スイス	力強いドローイングが生み出す、大胆で躍動感溢れる世界。ワルツに合わせて、回転するオブジェクトを視点の移動と変容によって描く。	<input type="checkbox"/>
ストリート・オブ・クロコダイル	ブラザーズ・クエイ	1986年 イギリス	双子の人形アニメーション作家ブラザーズ・クエイが放つ機械仕掛けと血肉で構成された怪奇幻想の世界は、独特の妖艶さをたたえている。	<input type="checkbox"/>
紅いコーリヤン	チヤン・イー・モウ	1987年 中国	イー・モウ監督初期作品の『紅いコーリヤン』や『紅夢』には「紅」が印象的に使われている。この色に中国の歴史や文化、人間の感情を込める。	<input type="checkbox"/>
友だちのうちはどこ?	アップバース・キアロスタミ	1987年 イラン	子供たちの自然な表情や振る舞いをドキュメンタリーのようにとらえた奇蹟の一作。イラン版『大人は判ってくれない』。	<input type="checkbox"/>
事の次第	ピーター・フィッシュリ デヴィッド・ヴァイス	1987年 スイス	フィッシュリ&ヴァイスはスイスのアーティストユニット。並べられた日常的な物が次々と引き起こす連鎖反応を即興的に捉える。	<input type="checkbox"/>
ゆきゆきて、神軍	原一男	1987年 日本	神軍平等兵を名乗る奥崎謙三はエワク残党隊の生存者を訪ね、戦線での事実を追及する。過激な奥崎を原のカメラが追い観客は目撃者となる。	<input type="checkbox"/>
木を植えた男	フレデリック・バック	1987年 カナダ	人里離れた荒野でたたか一人木を植え続けた男は、やがて荒地を緑の大平原へと変えた。流れるようなバステル画のタッチが限りなく温かい。	<input type="checkbox"/>
数に溺れて	ピーター・グリーナウェイ	1988年 イギリス	夫を溺死させようとする同姓同名の母、娘、祖母たち。この死のゲームの絵画的なカットの隅々に、1から100までの数字が散りばめられる。	<input type="checkbox"/>
デカラーグ	クシシトフ・キエロフスキ	1988年 ポーランド	デカラーグとは旧約聖書の「十戒」の意。ワルシャワ郊外のアパートに住む10人の生活を十戒になぞらえた。各話の映画的な時間構成は秀逸。	<input type="checkbox"/>
100人の子供たちが 列車を待っている	イグナシオ・アグエロ	1988年 スペイン	映画を見ることのない貧しい子供達に手作りで映画を教える女性教師の物語。『フィルム・ビフォー・フィルム』と併せて見て欲しい一作。	<input type="checkbox"/>
AKIRA	大友克洋	1988年 日本	2019年の東京湾に建設されたネオ東京が舞台。同名漫画をアニメーション化した“ジャパニメーション”的先駆となった大友克洋の作品。	<input type="checkbox"/>
動くな、死ね、甦れ!	ヴィタリー・E・カネフスキ	1989年 ソ連	大戦直後のロシアを、シベリアの傍く澄んだ光の中に描いたカネフスキー54歳の処女作。絶望と喪失感に閉塞した世界と少年の無垢の眼差し。	<input type="checkbox"/>
その男、凶暴につき	北野武	1989年 日本	北野武の初監督作品。監督業のきっかけは深作欣二の降板によるものだが、無秩序な暴力と虚無的な死という主題は既に克明に刻まれている。	<input type="checkbox"/>
鉄男	塚本晋也	1989年 日本	人間の肉体を金属が侵蝕していく暴力と官能。監督が脚本から出演まで1人9役で完成させた強烈なオリナリティはカルト的支持を受けた。	<input type="checkbox"/>
SITE RECITE	ゲイリー・ヒル	1989年 アメリカ	ゲイリー・ヒルは“ビデオ・アートの第2世代”的作家の一人。クロース・アップされた物体の画像と挿入される言葉の相間が生み出す緊張感。	<input type="checkbox"/>
僕の好きなこと、嫌いなこと	ジャン・ビエール・ジュネ	1990年 フランス	好きなことー車と並走する列車、接着剤の臭い、嫌いなことーあご髪だけの男…。ジュネによる独創的なイメージの奔流。続編は『アメリー』。	<input type="checkbox"/>
マッチ工場の少女	アキ・カウリスマキ	1990年 フィンランド	マッチ工場で働く冴えない少女の復讐劇。切り詰められた台詞と身振りなど、豊かなシンプルさというべき独特のたたずまいが妙に可笑しい。	<input type="checkbox"/>
ストーン	アレクサンドル・ソクーロフ	1992年 ロシア	海を臨む白い館へ老作家の魂が帰還する。映画とは常に新しい世界の構成であり、魂についての仕事であることをソクーロフの作品は伝える。	<input type="checkbox"/>
ディレクターズカット/ ブレードランナー 最終版※3	リドリー・スコット	1992年 アメリカ	近未来を描いたSF映画の代表作。模型によって生まれた壮大なスケールと、シド・ミードによる近未来のコンセプトは未だ色褪せる事はない。	<input type="checkbox"/>
阿賀に生きる	佐藤真	1992年 日本	阿賀野川と暮らす人々の生活を3年間現地で生活しながら撮影した作品。川のようにゆったりと流れ彼の時間はほのぼのと可笑しい。	<input type="checkbox"/>
光で書く撮影監督 ストラーロ	デビッド・トントン	1992年 イギリス	光と影をペンにして数々のストーリーを描いてきた撮影監督ストラーロ。その撮影哲学、映画理論をインタビューを交えながら紹介する。	<input type="checkbox"/>
親愛なる日記	ナンニ・モレッティ	1993年 伊/仏	監督のモレッティが彼自身を自演。軽妙な風刺を散りばめながら、バスでのローマ巡りや癌宣告などのエピソードを日記風にのびやかに綴る。	<input type="checkbox"/>
風の丘を越えてー西便劇	イム・ゴンテク	1993年 韓国	韓国の伝統芸能パンソリの旅芸人一家の、血ではなく唄で繋がった絆を力強い演出で描く。監督は韓国溝口健二と呼ばれる巨匠。	<input type="checkbox"/>
部屋 THE ROOM	園子温	1993年 日本	自主映画出身の監督・園子温が、自分の死ぬべき部屋を探し求めて彷徨う殺し屋を描く。長回し撮影と粒子の荒れた退廃的な世界。	<input type="checkbox"/>
アンダーグラウンド	エミール・クストリツァ	1995年 フランス	動乱のユーゴ史を力強い映像と音楽で綴った悲喜劇。饗宴と悪夢が交差するカーニバルのような世界観で現代まで続く悲劇を浮かび上がらせた。	<input type="checkbox"/>
GHOST IN THE SHELL 攻殻機動隊	押井守	1995年 日本	2029年の近未来、攻殻機動隊員たちはネットの海に漂いながら、脳核の一部がオリジナルであることを信じつつ、電腦犯罪の捜査にあたる。	<input type="checkbox"/>
議事堂を梱包する	ヴォルフラム・ヒンゼン ヨルク・グニエル・ヒンゼン	1996年 フランス	ドイツの旧帝国議会議事堂を梱包するクリスト夫妻の記録。24年の交渉を経て許可された東の間の梱包の美と、プロジェクトの意味とは?	<input type="checkbox"/>
ローザス・ダンス・ローザス	ティエリー・ドゥ・メイ	1997年 ベルギー	コンテンポラリー・ダンスのカンパニー“ローザス”の初期作品を映像化。反復する身体運動と、ミニマルな音楽・空間の構造的関係性。	<input type="checkbox"/>
A	森達也	1998年 日本	A=オウム。事件後の信者達にカメラは寄り添う。報道とテレビ、そして私道は彼らが「人間」であることを否定しようとしているなかで。	<input type="checkbox"/>
プリンス&プリンセス	ミシェル・オスロ	1999年 フランス	影絵による短編6話のアニメーション。人間の愛おしさや懐かしさに、ユーモアとエスプリを込め、抒情豊かに描かれた作品。	<input type="checkbox"/>
セブテンバー11 11'09'01	アモス・ギタイ他	2002年 フランス	2001年9月11日、アメリカ同時多発テロをテーマに11人の監督が11分9秒1フレームという制約の中で独自の視点で制作。	<input type="checkbox"/>
マトリクスとしての身体	マリア・アナ・タベナー	2002年 ドイツ	映像と彫刻を中心に創作活動を続けるアーティスト、マシュー・バーニーによる映像大作『クレマスター』シリーズからの抜粋とインタビュー。	<input type="checkbox"/>
ある子供	ダルデンヌ兄弟	2005年 ベルギー	盃みで暮らす20歳のブリュノは恋人との間に生れた子供を売る。不確かな社会の隙間で、善悪や愛情も理解できぬまま成長した若者達の痛み。	<input type="checkbox"/>
現代建築家シリーズ	現代建築家シリーズ	—	カラトラバ、ル・コルビジエ、安藤忠雄など、優れた建築家たちの作品を紹介、現代建築の潮流を探る。	<input type="checkbox"/>
アートドキュメンタリー ・シリーズ	ユーロスペース	—	美術、建築、音楽、写真などあらゆる分野のアーティストの姿や制作過程を、映像作家が独自の視点で切り取ったドキュメンタリー・シリーズ。	<input type="checkbox"/>
ディレクターズ・レーベル	クリス・カニンガム他	—	クリス・カニンガムやミシェル・ゴンドリーなど、傑出したミュージック・クリップの監督作品をまとめたDVDシリーズ。	<input type="checkbox"/>

※3『ブレードランナー』は1982年に初公開されたが、1992年のディレクターズカット版で新たなシーンが盛り込まれ、監督リドリー・スコット自身の解釈による編集バージョンが最終版として公開された。

作家として活躍する先生が語る

私の映画体験

創作の現場にいる先生たちは、映像作品をどのように観ているのだろう



「二羽の小鳥」／1968年

私が視覚伝達デザイン学科で映像コースの助手を務めていた1970年代後半は、まだレンタルビデオや市販のDVDなどは無く、短編のアニメーション作品を見る機会は非常に限られていきました。そんな中でわずかに日比谷図書館や日仏学院、またはカナダ、ドイツ、ベルギーなどの大使館が16ミリフィルムを貸し出していた、毎週、アニメーションに興味を持つ学生たちと一緒に、借りてきた作品をむさぼるように見たものです。その中の一つに『二羽の小鳥』を始めとするイブリン・ランパートの幻想的な切り抜きアニメーション(Cutout Animation)がありました。ランパートの作品はどれも寓意的な物語で、環境やアイデンティティの問題などを、ユーモラスに分かりやすく語りかけてきます。また、その画面は黒い背景に色鮮やかなキャラクターが浮かび上がり、独特の雰囲気を醸し出しています。私は若い頃、ランパートの作品をユニーク（簡易再生機）でコマズ追つて行く事で、誇張や省略などを駆使した切り抜きアニメーションの面白さを知ることができました。

彼女の作品に登場するキャラクターは、頭や胴体などのパーツが糸や金具などで結合されておらず、その為バツの置き換えに自由度が増して自然な動きが可能になります。また背景を黒ぐるものは、照明によってできる影を目立たなくするという働きもしていますが、画面に奥行きを与え、結合の緊ぎ目などの省略された部分を想像で補うという効果も生んでいます。一コマずつ見ていくと、飛び上がる時に、閉じた翼がある瞬間から突然開いた翼に置き換わっていたり、不自然な位に首が長くのびていたり、また振り返る動きでは、全く同じ頭部のパーツを、左向きから右向きのボーズへと使い回したりもしています。限られたバツを置き換える切り抜きアニメーションの不自由さを補いつつ、逆に動きの面白さを引き出しているのです。そして、それは人間の視覚の習性を熟知し、巧みに利用した結果なのです。私はその後、ユーリ・ノルシュティンの超絶的な技法の作品に接し、さらに大きな衝撃を受ける事になるのですが、切り抜きアニメーションという技法のエッセンスは、すでにランパートの作品の中に見ることができます。そしてそのエッセンスは、これからコンピュータを使ったアニメーション作りにも、多いに役立つと私は考えているのです。



イブリン・ランパート Evelyn Lambart

カナダ国立映画局(NFB)でノーマン・マクラレンの共同制作者として活躍。『二羽の小鳥』『欲張りブルージエ』『失楽園』『蛙の求婚』『ライオンとねずみ』『都會ねずみと田舎ねずみ』の他、ランパートを紹介したドキュメンタリー作品『イブ・ランパート』、マクラレンとの共同作品に『算数遊び』『色彩幻想』『垂直線』『水平線』『モザイク』などがある。右の写真は制作中のイブリン。

西本企良
視覚伝達デザイン学科
専門：情報デザイン
(アニメーション)



私の映画体験

DVDなどは無く、短編のアニメーション作品を見る機会は非常に限られていきました。そんな中でわずかに日比谷図書館や日仏学院、またはカナダ、ドイツ、ベルギーなどの大使館が16ミリフィルムを貸し出していた、毎週、アニメーションに興味を持つ学生たちと一緒に、借りてきた作品をむさぼるように見たものです。その中の一つに『二羽の小鳥』を始めとするイブリン・ランパートの幻想的な切り抜きアニメーション(Cutout Animation)がありました。ランパートの作品はどれも寓意的な物語で、環境やアイデンティティの問題などを、ユーモラスに分かりやすく語りかけてきます。また、その画面は黒い背景に色鮮やかなキャラクターが浮かび上がり、独特の雰囲気を醸し出しています。私は若い頃、ランパートの作品をユニーク（簡易再生機）でコマズ追つて行く事で、誇張や省略などを駆使した切り抜きアニメーションの面白さを知ることができました。

その後、帰国した私は詩人の吉増剛造氏と、タルコフスキイ、バラジャーノフ、ジョナス・メカス、ソクーロフらの旧ソ連の作品を観る機会を得た。これらの映画で表現される空間やマテリアル及びイメージは、私が創作する絵画・版画という2次元の表現に日常生活では得る事のできない新たな突破口を提示してくれた。彼らの作品は「未知」というものの境界を視覚でみせる力強さを持っていた。例えばヌメヌメする水辺の映像が『ストーカー』では、水滴が滴り、湯気を浴び、水に浸る、という感覚となり、視覚を通して私の五感の全てで鮮やかに蘇るのである。

私は学生たちと映画を鑑賞するセミを設けている。そのとき必ず口にすることは「作品を自分の世界に引き寄せて観なさい」そして「作品のどこかに隠された自分とのスイッチを探しなさい」ということです。現代の若者はインターネットやサブカルチャーの中で豊かに育ち、仮想空間の中で多くの情報を得ることができる。しかし一方では私たちの世代が体验してきた泣き笑い、恐れ、傷つき、汗にまみれ、汚れ、貧困にあえぐという感覚に乏しいのではないだろうか?バゾリ一二の『アッカトーネ』を観たとき野卑ゆえの美しさを思い、リンクの『ロスト・ハイウェイ』では闇と光のイリュージョンに、またヘルツォークの『フィツカラルド』では船の美しさとベルリーニの『白鳥の歌』に心うたれる。映像には人間の中に潜んだ本能的な感覚を呼び覚ます力があるのだと思感する。

創作活動を続ける中で、その軸足をどこに置くのかと己の立ち位置を見つめる時、映像作品から受けける感覚が、私に新しい創作のフィードを提示してくれるのです。

私の映画体験

柳澤紀子
油絵学科
専門：銅版画
ミックスト・メディア



「ストーカー」
アンドレイ・タルコフスキイ／1979年



脇谷徹

共通彫塑
専門：彫刻

インドのサタジット・レイ監督の『大地のうた』は、それまで私が観てきた映画とは全く異質であった。初めて観るインド映画ということもあり、これまで観た映画とは勝手が違うと思いながら観た記憶がある。映画のあらすじそのものは、特異なものではない。インドの農村を舞台にした貧しい一家の悲しい運命が描かれているのだが、気が滅入るような話であるにもかかわらず映画を観終わった時には、不思議な清涼感に満たされたことを覚えている。

人間の貧しい生活や悲しみを描いた映画はめずらしくないが、この映画は人間社会の貧困や悲しみを描くことが主題でもなければ、同情やそれらを生み出す社会への怒りが主題でもない。貧しく悲しい運命を背負った家族の暮らしがそれを取り回す農村風景や風物と共に、自然で誇張のない表現で丁寧に描かれている。映画の後半に老婆が死ぬシーンがある。竹林にしゃがみ休息していた老婆が、いつの間にかこと切れていた。そろとは知らない少女が老婆を起こそうと振り動かした瞬間、老婆の亡骸が倒れるシーンだ。横倒しになつたとき、頭部を地面に打ち付け、ボクッと鈍くこもつた音がする。このシーンには驚いた。恐ろしい描写である。そこには、今まで生きていた人間があつけなく死に、骸すなわち物体になつてしまつたことが冷徹に描かれている。

一家の悲惨な生活ぶりに反して、雨・雲・風・陽光・陰といった自然現象や風景描写はリズミカルでまことに美しく、随所にちりばめられた音楽と相まってこの映画の大きな魅力となつていて。特に人物をロングショットで捉えた映像は圧巻である。人間ドラマの背景としてはなく、人間を取り囲む大きな存在、すなわち自然界の象徴として、これらの自然現象が実に美しく描かれ、森羅万象が映像詩に昇華している。人の生き死も自然であり、自然界の極めてささいな出来事に過ぎないといった東洋的諦觀と済ませてしまえばそれまでだが、この映画は思想的表現ではない。映画そのものが思想だといえる希有な作品であろう。

映画は子供の頃より好きで洋画・邦画を問わずよく観ていたが、それはもっぱら娯楽として楽しむものであり、現在もそれは変わらない。しかし、この『大地のうた』を観て以来、私にとって映画が娯楽の枠に収まらなくなつてしまつたのである。私は『大地のうた』によって、映画が美術と同じく芸術の一領域であることをあらためて知り、「表現」という点において美術と何ら変わることを知つたのだ。自分の直接的な専門領域ではないという気楽さも手伝つて、映画を通して「表現」のことをあれこれ考える習慣が、この時以来現在も続いている。



「大地のうた」
サタジット・レイ/1955年



2007年度 イメージライブラリー開館カレンダー

■ 10:00~18:00 ■ 10:00~17:00 ■ 閉館 ■ 閉館(祝日・振替休日)

4 APRIL

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

※ 4/26は課外講座のため16時で閉館します。

5 MAY

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6 JUNE

日	月	火	水	木	金	土
		1	2			
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

※ 6/7は課外講座のため16時で閉館します。

7 JULY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8 AUGUST

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4			
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9 SEPTEMBER

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10 OCTOBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11 NOVEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3				
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12 DECEMBER

日	月	火	水	木	金	土
1						
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

1 JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

※2~3月は閉館いたします。

※休館日および開館時間変更に関する詳細は、館内掲示版・ホームページでお知らせします。

編集委員 板屋 緑(映像学科教授)
下川クミカ 木村美佐子
田中友紀子 久保田桂子

イメージライブラリー・ニュース別冊号
2007年4月発行

武蔵野美術大学 イメージライブラリー
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
tel/fax : 042-342-6072
<http://www1.musabi.ac.jp/img-lib/>
禁無断複製・転載